

(+) 鍼灸術を一日も早く科学化して、古い伝統の上にたてられた臨床医術を、現代の人々に理解され易い様にせねばならないとして、過去に於て試みられたにも拘らず、未だに確固たるもののが決定されていない。私は常に科学化については、古来より伝えられた鍼灸術を認めた上にたつたものでなければ納得出来ないと言う立場をとつて来た一人である。

去る十月二十日、東京大学中央図書館で、キムボンハン学説の映画が初公開されると知られ参加することが出来た。過去三回発行された書籍から得たものと、今回映画によつて得た事実とで、ボンハン学説の大要を知り得たことは、永年吾々が待ち望んでいた、鍼灸術の科学化の一面であることを痛感した次第である。

私は学者でもなければ、医者でもない。科学に対しては全くの素人であるが、私が

鍼灸術を一日も早く科学化して、古い伝統の上にたてられた臨床医術を、現代の人々に理解され易い様にせねばならないとして、過去に於て試みられたにも拘らず、未だに確固たものが決定されていない。

私は常に科学化については、古来より伝えられた鍼灸術を認めた上にたつたものでなければ納得出来ないと言つて居る所である。

## 井 上 恵 理

(+) 其の事実が東洋医学的鍼灸術に於て、感能的・主感的であつたのを、客感的事実として発表されている事に対して、臨床家の立場からその思想を述べることとした次第である。

(+) ボンハン学説の研究追試の日本に於ける実績は、大阪市立医大の藤原知先生、東邦医大の幡井勉先生、名古屋医大の渡辺先生によつたものを、教育大医学部教室に於て行われた、講演及び家兔を解剖して、その内臓表面と血管内からボンハン小体及びボンハン管を取出して見せて戴いたことで、大略を承知していたのであつたが、今回の映画から、次の事項について深い感銘を受けた。

一、ボンハン学説は、古典に記載されてゐる経絡（經脈、絡脈、經水、經筋）に最も近いものである。

二、ボンハン小体、ボンハン管、ボンハ

ン液は、現代医学上では未だ發見されたことのないものである。

三、ボンハン管の流注は経絡の走行流注としての鍼灸術、其の中心である、経絡の研究が、キム・ボンハン先生によつて、物質的所見として發見されたことに対する悦びと、其の事実が東洋医学的鍼灸術に於て、感能的・主感的であつたのを、客感的事実として発表されている事に対して、臨床家の立場からその思想を述べることとした次第である。